

## News Release

### 印刷品質向上のための新デジタルワークフローの導入 -自動仕上がり線入力ソフト開発-

図書印刷株式会社（本社：東京都港区 代表取締役社長 沖津仁彦）は、カーネルコンピュータシステム株式会社（本社：横浜市 代表取締役社長 上本勝機）と共同し、自動仕上がり線入力システムを開発、運用を開始した。

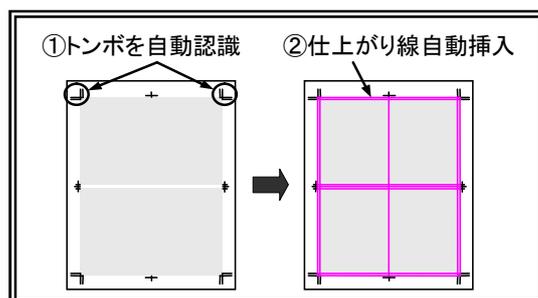
本システムは、印刷データから、「トンボ（印刷物の仕上がり位置を指定するマーク）」を自動検出して、それらを結ぶ「仕上がり線（注記参照）」を出力するシステムであり、本システムの運用により、校正作業におけるデータの保障や業務負担の軽減を図ることができる。

#### [1]本システムの主な仕組み

本システムは、校正紙上に配置されている、トンボを画像として認識し、そのトンボを結ぶ線を出力する点である。なお、出力は、印刷データ自体に記録されている仕上がり寸法やトンボの情報に全く依存しない。

#### [2]本システムの主な特徴

- (1)印刷時のデータに一切手を加えず、校正紙上に仕上がり線等の出力を行うため、印刷物に線が入ることは一切起こらない。
- (2)頁のサイズを実測し欄外に表示できるため、元データの寸法が仮に誤っていても発見できる。
- (3)今まで手作業で入力していた、折名、品名等の記入を自動的に行うため、事務負担の軽減が図れる。



(注)「仕上がり線」について

書籍やパンフレットなどの印刷作業では、通常完成サイズよりひとまわり大きい用紙に絵柄を印刷し最終的に不要な余白部分を切り落として、正寸サイズとしている。

この切り落とす位置を示す線を「仕上がり線」といい、印刷会社や出版社などの校正担当者は本番印刷前の校正紙に「仕上がり線」を手作業で引き、完成寸法より外に文字や絵柄がはみ出していないかをチェックしている。

#### [3]システムの展開

図書印刷では、11月より本システムの運用を開始した。

図書印刷では、品質向上、納期短縮、環境負荷の低減などの目的から、印刷工程の全面的デジタル化を積極的に推進しており、本システムは、新しいデジタルワークフロー構築の一部をなすものである。

#### [4]システムの外販に関して

本システム用のソフトウェアは、カーネルコンピュータシステム(株)が一般向けに販売を開始した。

#### 【本件に関する問合せ先】

図書印刷株式会社 事業戦略企画室 (TEL 03-3473-7351)

以上